

企業家有志が支援物資

東日本 大震災 栃木県から大槌町へ

東北地方太平洋沖地震で壊滅的被害を受けた東北地方沿岸部に向けて、全国各地から支援物資が寄せられている。27日には、栃木県の有志から灯油や食糧、衣類など支援物資が大

槌町に届けられた。

大槌町に支援物資を提供したのは、栃木県のライオンスクラブ会員や中央建設企業経営振興事業協同組合連合会(中建連)の会員。那須塩原市で事業を営む(株)昇産業社長でライオンスクラブ国際協会333-B地区名誉顧問の井上幸一氏やサントリースキエアーク会長で中建連会員の深谷己久見氏らが中心となり声掛けしたところ、

栃木県全域の多くの企業家が賛同した。

「那須地方は、豪雨災害で大きな痛手を受けた経験がある。自然災害による苦しみを味わった事業者も多く、(呼び掛けに)あつとあつと間に支援の輪が広がった」と井上氏。物資の提供はもとより、タンクローリーなど輸送用車輛も快く提供してくれたという。井上氏は、栃木県アイバンクの理事長も務

めている。知り合いで獨協医科大学の小原喜隆名誉教授の故郷・大槌町が「震災で甚大な被害を受けた」との話聞き、同町へ支援物資を提供することを決めた。

一行は26日夜、タンクローリーやトラックを含む5台に分乗し栃木県を出発。27日早朝には、深谷氏と交流のある盛岡市本宮の(株)カヤ(望月郁夫社長)に到着した。

提供される物資は、灯油2000リットルとポリタンク335缶、石油ストーブ15台のほか、ご飯やみそ汁、おかず3品のチルドセットが2000食にコメやお菓子、それに下着や衣類、子供用オムツなどの生活必需品など、避難所での生活で最も必要とされているものを選んだという。

一行は午前7時に(株)カヤ本社を出発。望月社長と佐々木博典議同行し、大槌町に向かった。到着後は、小さな車に物資を分け、ピストン輸送で直接避難所に届けた。大槌町での作業を終えた一行は宮城県に向かい、物資を贈った。



物資提供へ大槌町に向かう栃木県からの一行